

令和6年8月27日

横浜市立東希望が丘小学校 学校だより



# 東希小だより 9月号

「咲こう 輝こう マーガレットのように」

## 非常災害について考える

副校長 栗田 朋子

長い夏休みを経て、今日から学校には元気な子どもたちの声が戻ってきました。子どもたちは約40日の夏休みで、一回り心も体も大きくなったように感じます。

さて、児童のみなさんにとっては、どのような夏休みだったでしょうか。

今年の夏は猛暑日の日数を更新し、過去最高となりました。東北地方の大雨や台風。宮崎・日向灘沖地震の発生に伴い、気象庁から南海トラフ地震発生の可能性が平常時より高まっているとして、南海トラフ地震臨時情報「巨大地震注意」による特別な注意の呼びかけが発表されました。8月15日には終了となりましたが、地震発生の可能性が普段より高まっていた状態が戻りつつあるだけで、大規模地震発生の可能性がなくなったわけではないようです。

また、神奈川県でも9日に震度5弱の揺れを神奈川県の厚木市と中井町、松田町、清川村で観測しました。横浜市旭区は震度3の観測でした。南海トラフ地震と今回の地震については、複数の専門家は、震源が遠く離れているなどとして関連を否定していました。

本校では、8月30日に総合防災訓練を行います。児童の在学中に大規模地震が発生し、避難場所に迅速に避難することを目的とした避難誘導訓練と被害状況訓練を行います。また児童を素早く確実に保護者に引き渡すための引き渡し訓練も実施します。

9月6日には、4年生の社会「自然災害から人々を守る活動」の学習の一環で、東希小地域防災拠点運営委員会の皆さんによる出前授業を実施していただく予定になっています。防災拠点活動のお話やトイレパックについて、防災備蓄庫見学、ランタン手回し体験などが予定されています。

地域の訓練では、10月27日には東希小地域防災拠点避難所訓練が予定されています。

このように「防災教育」は学校現場では様々な教科や領域の中で進めています。また、地域においても多くの取組

が行われています。家庭でも、いざという時のために、家具の固定や非常時の持ち出し袋の点検、避難所の確認、災害時の連絡方法の確認や非常用食料の備蓄などについて今一度話し合っておかれてはどうでしょうか。全てが命を守ることに繋がります。

東希きょうどう隊の皆様

土日及び夏休み閉庁期間のウサギの世話と花壇の水やりのボランティア活動にご協力頂きありがとうございました。感謝申し上げます。

